

「良い臨床検査技師」とは？学生・現役技師・教員の対話を促すワークショップの試み

◎關谷 暁子¹⁾、中庄 沙樹²⁾、中村 雅彦³⁾、岡本 成史¹⁾、杉森 公一⁴⁾、油野 友二⁵⁾

金沢大学医薬保健研究域保健学系¹⁾、金沢大学大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻²⁾、富山県立中央病院³⁾、金沢大学国際基幹教育院⁴⁾、北陸大学医療保健学部⁵⁾

【はじめに】去る2016年12月10日、日臨技中部圏支部医学検査学会養成校企画において、ワークショップ「『良い臨床検査技師』ってどんな技師？」を開催した。本企画のねらいは「臨床検査を学ぶ学生（学生）」「臨床検査技師養成校の教員（教員）」「現役臨床検査技師（技師）」が対等な立場で意見を交わし、3者それぞれが抱く「良い臨床検査技師」像の共通点と相違点を互いに認識し、多様な臨床検査技師のあり方を知るとともに、これからの時代を担う臨床検査技師の姿を模索することである。このような企画は全国的にも例がなく、今後の臨床検査技師育成に寄与するものと思われるので、その内容を参加者アンケートの結果とともに報告する。【内容】学生40名、教員12名、技師34名の合計86名が参加した。最初に、学生、教員、現役技師の順に、それぞれの立場から見た「良い臨床検査技師」像についてプレゼンテーションをした後、3つの立場が混在する12のグループに分かれ、プレゼンテーションの感想や、立場の異なる参加者への質問、自らが考える「良い臨床検査技師」像などについて意見を交わした。そ

の後、各自が用意されたシートに「私が（なりたい・求める・育てたい）臨床検査技師は…です」という短い作文をし、互いに見せて感想を伝え合った。プログラム全体の時間は約90分であった。【結果】学生からは、「患者や他の医療スタッフに必要とされる臨床検査技師」、教員からは「急速な発展と変化を続ける医療界に大きく貢献できる臨床検査技師」、技師からは「社会人基礎力と臨床検査技師としての技能を兼ね備えた臨床検査技師」が、「良い臨床検査技師」としてあげられ、それぞれの立場から、異なる立場の人たちに求めることが伝えられた。アンケート（回収率66%）の結果、「総合的に満足」は全体の84%、「また参加したい」は72%、「初めて気づいたことがあった」は81%であった。【まとめ】医療技術の進歩や臨床検査技師教育体制の変遷に伴い、社会に求められる臨床検査技師像も変化しつつある。これからは現役技師と教員が一体となって、学生を「未来の価値ある臨床検査技師」へと育てていく必要がある。今回のような企画がそのひとつの実践モデルとなる。（關谷暁子 076-265-2609）